授業科目	心理学と心理的支援Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	杉本　有紗						
授業概要	心理学は、「心の学問」である。心理学は、「人がなぜそのようにふるまうのか」といった心の仕組みを解き明かす基礎的な側面と、心を支援したりする技術を提供する応用的な側面をもっている。心の支援を行うためには、基本的な心の仕組みを基礎として理解しておくことが必要である。 『心理学と心理的支援Ⅰ・Ⅱ』では、心理学を体系的に学び、基本的な心理学の知識を身につけることを目的とする。 後期『心理学と心理的支援Ⅱ』では、学習、感覚・知覚、注意・記憶、言語・思考、社会的行動など「心理学」の基礎として重要な分野を取り扱う。						
授業形態	講義			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．学習について説明することができる。 2．感覚、知覚について説明することができる。 3．注意、記憶、思考について説明することができる。 4．感情、動機づけと欲求について説明することができる。 5．自己と他者、対人関係、集団等の枠組みで社会行動を説明することができる。 6．脳と神経系の仕組みと機能について説明することができる。 7．日常生活で経験する様々な現象に関心を持ち、心理学の知識と結びつけようと努力することができる。
理想的レベル	心理学の基本的な知識をよく理解し、現実場面のさまざまな問題を考える時に応用することができる。心理学の考え方や理論について、授業で学んだ内容を手がかりとして、さらに調べ、知識を広げることができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	70%	
小テスト		
レポート	30%	小レポート
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21402J

学習課題（予習・復習）	1回の学習目安（時間）
事前にテキストの該当箇所を読む。テキストと授業資料を振り返る。授業の要点をまとめる。	4

授業計画

第1回	テーマ：オリエンテーション・学習①　条件づけ 学習とは、古典的条件づけ、オペラント条件付けについて解説する。

第 2 回	テーマ：学習②　認知的学習 馴化、刷り込み、その他の学習について解説する。
第 3 回	テーマ：感覚・知覚①感覚 感覚、精神物理学、錯覚について解説する。
第 4 回	テーマ：感覚・知覚②　知覚 知覚の恒常性、形の知覚、奥行きの知覚について解説する。
第 5 回	テーマ：記憶・思考①　注意と記憶 注意、記憶の過程、短期記憶、長期記憶、忘却について解説する。
第 6 回	テーマ：記憶・思考②記憶、言語と思考 記憶の区分、言語と思考、スキーマ、表象、問題解決について解説する。
第 7 回	テーマ：感情・動機づけ①　感情 感情、感情の古典的理論、感情の伝達について解説する。
第 8 回	テーマ：感情・動機づけ②　動機づけと欲求 動機づけ、欲求階層説、内発的動機づけと外発的動機づけについて解説する。
第 9 回	テーマ：社会行動①　自己と他者 自己概念、自己開示と自己呈示、態度と態度変容について解説する。
第 10 回	テーマ：社会行動②　対人行動 印象形成、帰属過程、対人魅力、社会的促進と社会的手抜き、援助行動について解説する。
第 11 回	テーマ：対人行動③　集団と個人 同調、集団意志決定、リーダーシップ、集団間関係について解説する。
第 12 回	テーマ：心と脳①　神経系 脳の働き、神経細胞、シナプス伝達について解説する。
第 13 回	テーマ：心と脳②　認知機能の障害 認知機能の障害、視覚認知の障害、言語の障害、記憶の障害について解説する。
第 14 回	テーマ：心理学の基礎と応用 これまで学んだ心理学の基礎知識、心理学の応用分野、現代の主要な心理支援について解説する。
第 15 回	テーマ：まとめ 心理学と心理的支援Ⅱにおいて学んだことを振り返る。
テキスト	『エッセンシャル心理学』長谷川千洋編　ナカニシヤ出版（2020）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	●情報量の多い、充実した概論書● 『心理学概論第 2 版』岡市廣成・鈴木直人監修　青山謙二郎・神山貴弥・武藤崇・畑敏道編　ナカニシヤ出版（2014） 『心理学』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治著　有斐閣（2004） 『心理学　第 5 版補訂版』鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎編　東京大学出版会（2020） ●情報量が絞られ、手に取りやすい概論書● 『心理学概論　こころを科学する　第 2 版』吉崎一人・松尾貴司・斎藤和志編著　ナカニシヤ出版（2019）

	『心理学をつかむ』今井久登・平林秀美・工藤恵理子・石垣琢磨著　有斐閣（2009） 『心理学』鈴木常元ら　編　新曜社（2014） 『心理学への招待　人間理解の科学　第 2 版』鈴木清編　ナカニシヤ出版（2002） その他、適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートを返却する。 成績発表後に、評価点分布図を提示する。
学生へのメッセージ・コメント	『心理学と心理的支援Ⅰ』を受講していることが望ましい。 書店や図書館等で参考になる書籍を探してみてください。心理学に関する書籍は数多く出版されています。 各書籍とも心理学の知識を伝えようと、様々な工夫が凝らしてあります。自分の読みやすいテキスト、自分の知りたいことがもっと詳しく説明されているテキストは他にもあるかもしれませんよ。 また、日常場面での体験と、授業で学んだ内容を結びつけてみてください。心理学を身近なものとして感じて興味を持ってほしいと思います。